

たていわ けいこ
立岩 恵子さん

浜松市認定農業者（立岩牧場）

浜松市農政推進委員会委員

●自慢出来るまち、浜松！

浜松は農業・商業・工業すべてが盛んに行われており、気候も温暖で自然にも恵まれている。このことは、市外から転入してきた人たちや、お客さんからもよく聞くので、浜松に住んでいることは皆に自慢が出来る。

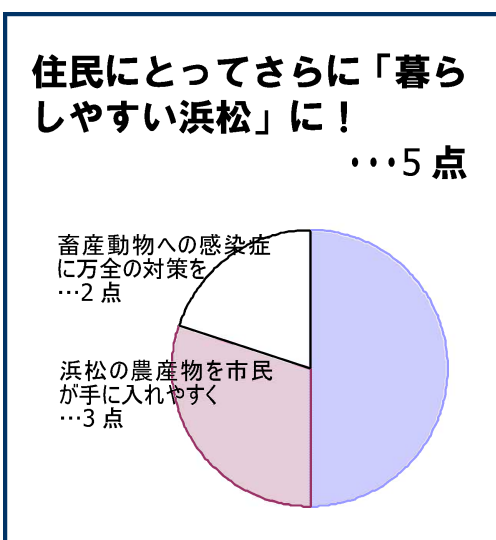
●地元農産物をみんなが口にできるように

浜松は近年、工業に特に力を入れていることはとても良いことだと思うが、一方で農業が置き去りにされている印象がある。最近では農家自体が減少してきているが、浜松の農産物は、高品質なため需要も高く、大都市で流通したり、海外への輸出なども増えている。その反面、市内の飲食店でも比較的安価な店舗では輸入農産物に頼るところが多い。これでは、浜松市民は浜松の農産物を食べる機会が減ってしまい、健康面でも心配である。また、工場の内陸移転の動きもあるが、農業にとっても山間部より三方原のような平坦な土地の方が営農しやすい。工業は平地であれば営業できるが、農業は土を選ぶ。自然資源が多い浜松の特性を上手に利用して、浜松市民が当たり前のように浜松の農産物を口にできるようにしてほしい。



●農業が持っている力

かつて戦後の食糧難の時代でも、農業の盛んな地域は何も困らなかったと昔の人たちから聞いた。実際に災害が起こった際、都会では食糧の問題が出てくるが、農業が盛んな地域や農家では、食糧の備蓄は当たり前のように行っており、災害対策の観点でも、農業者の育成は必要ではないか。



【浜松市への期待度グラフ】

●「暮らしやすい浜松」を！

区協議会など、地域住民の意見を集める機会是用意されているのに、得た意見が施策に反映される仕組みが弱いと感じる。地域住民の各分野の意見を、行政がより反映できる体制づくりが必要である。

農業分野では、遊休農地があって農業を始めたい人もいるのに、それを支援できる体制が整っていなかったり、好条件の農地であるのに車が入りづらいなどの問題で、耕作規模が拡大できない土地があったりする。現場の意見を反映した施策をお願いしたい。

また、富士山の世界文化遺産登録により、海外からの観光客も増加するだろうが、人の出入りが多くなると、酪農家としては感染症が心配である。富士山静岡空港での検疫など、万全の体制をお願いしたい。

た な か と し あ き
田中 利昌さん

ガステックサービス株式会社 四川飯店西塚店マネージャー



[田中利昌さん]
日々の積み重ねが、30年後の理想の浜松市につながると語る。

●高まる食への安全意識

お客様の食に対する意識は変わってきている。提供する料理の味だけでなく、安心、安全を求める意識が向上し、素材にも注目が集まるようになってきた。今後もこうした意識はますます高まり、住宅の建築資材や身につけるものなどの様々な分野へ、安心、安全への需要は広がっていく。行政は明確な基準の設定が求められ、サービス、商品の提供者は基準を守りながらコスト管理を行うこととなり、官民ともに工夫が求められる。

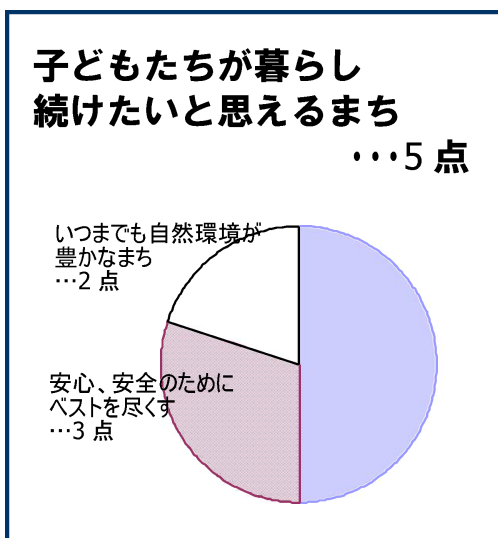
●お客様のニーズはユニフォームを脱いでから感じる

お客様のニーズを把握するためには、様々な手法がある。まずは、アンケートに回答してもらったり、スタッフが直接聞いたご意見を集約したりといった方法である。また、お客様が帰った後のお皿の状況にも、ヒントが隠れている。料理が残されていたら、味が合わなかったのか、接客で気分を害されたのかなど、考えるべきことはいろいろある。

更に重要なのは、プロとしての自分自身の感覚である。仕事を離れ、家族を連れて食事に行く時には、接客、店の雰囲気など、良い意味でも悪い意味でも、自分の店舗の参考になることはたくさんある。行政の職員も仕事を離れば市役所からサービスを受ける市民である。サービスの受け手として、自分の仕事を客観的に見ると、仕事とは違う見え方、発想ができるのかもしれない。

●完璧は無理でも、ベストを尽くす

公園の遊具の劣化による子どもの事故や、高速道路のトンネルでの天井落下などの報道を見聞きすると、行政には人の命を預かる業務が幅広くあると感じる。同時に、施設の経年劣化は、日常的な点検を綿密に行うことにより、事故を予防することが可能ではないかとの考えも浮かぶ。国、県、市などが関係しており、手続き等が複雑なのかもしれないし、人の行うことであるため、完璧を求めることは酷であろうが、重要な仕事をしている以上、手を抜くことなく、ベストを尽くすことを期待したい。



【浜松市への期待度グラフ】

●子どもたちが暮らし続けたいまち

幼い頃には、近所の川で魚釣りをしたり、空き地で遊んだり、魅力的な遊び場があった。今の子どもたちは遊び方も変化しているのだろうが、30年後の将来を担う子どもたちが、暮らし続けたいと思えるまちにしていく必要がある。まちづくりという大事業にとって、30年はあっという間である。日々、この地域を良くしていきたいと思いつけることの積み重ねが、30年後の輝かしい浜松市を形成すと考える。

た な か み つ る
田中 充さん

浜松市東区笠井地区自治会連合会長

浜松市東区笠井上町自治会長

●やらまいか気質で前進を！

浜松市は、産業においては光産業、四輪・二輪産業、楽器、繊維等が世界的である。伝統的な芸術文化としては、浜松まつりや世界ピアノコンクールのほか、地区ごとにも多数のまつりが存在する。自然環境としては非常に豊かで、日照時間も日本一である。

このような強みを活かす工夫が行政と市民が協力し合い前進することが必要だと考えている。

●やめまいか気質が散見？

浜松市は、市内に中山間地域と都市部を包含しており、多様な価値観を持つ市民が生活している。このような状況下で、例えば都市部に適した政策を実施しても、中山間地域でも受け入れられるとは限らない。市民を巻き込んで、じっくりと市政を執行していくべきだろう。

また、最近気になっているのは、特に若い年代において「やめまいか」気質が散見されることである。浜松は、徳川家康公が青年時代の17年間在城し、三方ヶ原の戦いの敗戦など苦渋の日々を経験するが、それをバネに天下統一の礎を築いたまち。今の浜松でも、どんな苦渋下においても諦めずに希望を持ってほしい。

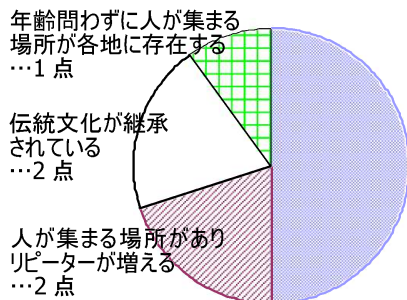
●将来に向けて大胆な施策を

今後、人口は減少し高齢化も進むが、浜松市には東名・新東名高速道路、国道1号があり、交通の大動脈は整備されている。有効に利活用することで定住人口を増加させることも、商圈を確保することも可能だろう。また、高齢者には必ずしも高額な医療費がかかるという悲観的な展望ばかりではない。元気に活躍している高齢者はたくさんいる。健康に長生きしてもらおう。市役所をまちなかの公共交通に連結できる場所に移転させて浜松城周辺に憩いの広場を用意するなど、大胆に整備をしてしまう考え方も重要だ。



【田中充さん】
市民と行政は投手と捕手の関係。市民からは適切な要求をし、行政はそれに応じて欲しいと語る。

市民と市の関係が強化。 市民生活が安定するまちに ・・・5点



【浜松市への期待度グラフ】

●矛盾への挑戦

行政組織に求められるものは、経済・福祉・教育を充実させること。浜松市としてしっかりとこの3点の充実を努めてほしい。区役所が設置され、市民と行政の距離感は縮まったので、ただ市に期待するだけでなく、自分たちは何ができるか、何をしてほしいのかというアイデアを市民は出していかなければならない。

やるべきことは多数ある。すべてを解決することはできないので、しっかりと市民と行政の意思疎通を図りながらお互いに協調して歩いていくことが重要になる。30年後なんて、あっという間である。

た の せい い ち
田野 聖一さん

静岡国際言語学院勤務

●お互いを知ることが大事

外国人と日本人、お互いを知らないで誤解や恐怖を生む。コミュニティ規模の小さい外国人側から歩み寄るのは難しいので、どうしても同じ国籍同士で集まってしまう。規模の大きい日本人側から手を差し伸べることが大切である。また、日本人の中でも文化の違いはある。外国人は日本の文化を否定しているのではなく、住み良い暮らしを求めている。文化の違いはお互いを知る機会を増やすことで、許容できると思う。



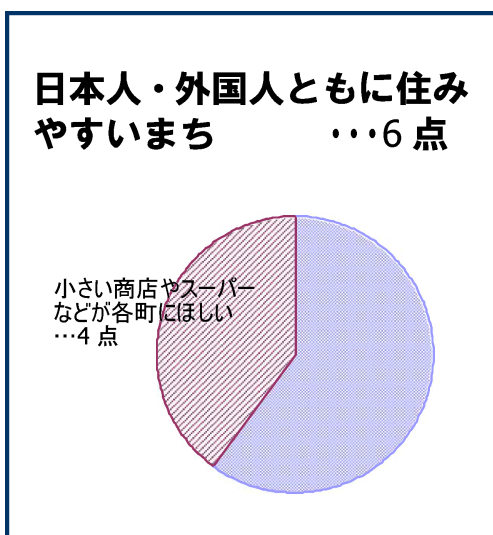
【田野聖一さん】
外国人と日本人がお互いをもっと知ることが大事。

●日本語教育の活動を継続的に

外国人にとって日本語教育は極めて大事である。また、活動は継続していかないとなかなか成果が出てこない。自分自身、「にほんご NPO」で日本語教師をしていた。主な活動目的は、外国人と日本人のコミュニケーションを図ること、外国人の日本語能力アップ、日本人向けに外国人に伝わる簡単な日本語を話せる能力アップ。日本語を理解することができれば、お互い意思疎通ができ、コミュニケーションが図れる。しかし、浜松市の補助金が活動費の2分の1であり、活動を継続することが難しいと感じている。補助金を充実させてほしいのはもちろんだが、大学との連携モデルを構築し一緒に活動できたら良いと考える。

●多くの外国人の強みを活かして

横浜市は中華街で成功している。浜松市にブラジル街をつくったり、ブラジル料理を提供するイベントを開いたりしても面白い。まちなかで開かれているサンバのイベントは効果を挙げている。浜松市は他の都市にはない、多くの外国人が住んでいるので、強みを活かさないともったいない。



【浜松市への期待度グラフ】

●移民問題をもっと真剣に

私自身、外国人は、どんどん日本へ移住してもらった方が良いと考える。少子高齢化対策として子どもを増やすよりも現実的ではないか。また、30年後には外国人の不就学児童が大人になり、仕事に就いていない外国人が増えることも考えられる。移民政策、言語政策についてもっと真剣に考えていくべき。浜松市はすでに多くの外国人を受け入れているので、こうした強みを活かして外国人と共存することに責任を持って取り組んでほしい。

たばた たかひさ
田畑 隆久さん

田畑公認会計士事務所

●失敗を恐れず自由に挑戦する気風を！

浜松の強みは、進取の気質に富むところである。しかし現在、行政も民間もリスクを冒すことを極度に恐れ、それが地域の閉塞感を生んでいる。これだけ変化の激しい時代にあって 30 年後の社会経済を予測するのは困難であり、都市間競争に勝ち抜くためには、行政が税収確保を政策の中心に置きつつ、失敗を恐れずに、積極的に取り組むことが大切である。また、高齢者も今までのように、社会に依存するのではなく、むしろ社会の主たる担い手となるような、政策を展開すべきである。

人口は都市の実力の源泉であることから、例えば、長く市内に住むことを条件に、もっと子育て支援を充実すべきである。また、民間企業にあつては、様々な起業が活発化するよう、積極的に資金供給がされる仕組みが大切である。

●本質を捉えたメリハリある行政を！

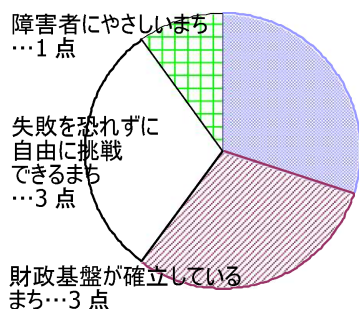
外部監査をはじめ様々な政策に携わる上で、形式論で政策が進められていることが非常に気になる。例えば、観光行政は様々なキャッチフレーズを付けて政策を展開しているが、他地域と比べた実力差や独自の魅力など、客観的分析に基づく冷静な判断や本音ベースの議論などが十分でないまま、抽象的なイメージで進んでいる。

30 年先に活気あるまちを維持するためには、建前でなく浜松の強みの源泉を客観的に見出し、本質を捉えたメリハリある施策を展開すべきである。また、市の職員にはもっと専門性を高め、民間に出ても通用するだけの力を育成するとともに、適材適所で人員を配置するような人事システムを構築すべきである。



【田畑隆久さん】
30 年後には、今のよう一つのまちに定住することがなくなるのではないか。

子ども・青年・老人に 居場所があるまち…3 点



【浜松市への期待度グラフ】

●時代に合った公会計の確立を！

現在の公会計は、行政無謬・右肩上がりの経済を前提としており、変化が激しく経済や行政に余裕のない現状に合っていない。

行政と民間の役割分担や、使命を終えた事業のスクラップ&ビルドが求められている今、公会計にもフローだけでなく、ストックの概念を取り入れ、発生主義や期間損益の理念が反映され、市の経営状況を正しく表した会計を実現することが求められている。

今以上に民間委託を進め、民間並みの効率的な行政経営が可能となり、ひいては、30 年後を見据え、負の遺産のない財政基盤の強いまちを実現できる。

つつみ たかし
堤 京さん

浜松市自治会連合会副会長／北区自治会連合会会長
三ヶ日地区自治会連合会会長／大崎地区自治会長
浜松市北区協議会委員／三ヶ日まちづくり協議会会長

●地域の特性を活かしたまちづくりを

浜松市は、工業、商業、農林水産業、文化芸能、すべての分野において全国トップレベル。様々な得意分野があるのは強みである一方、地域ごとに特色が異なることの表れでもある。市として一つにまとめるのは難しく、各地域の特色を活かすべき。

抱える問題も、地域によって異なる。三ヶ日では施設の有効活用や防災などが課題となっている。行政には、各地域の事情を理解し、柔軟な施策を打ち出してほしい。



【堤京さん】
三ヶ日では、定年退職後、みかんづくりをする人も少なくないと語る。

●シニアパワーで「絆」の見えるコミュニティづくり

近年は、異業種間の交流や、「向こう三軒両隣」のご近所づきあいなど、横のつながりができていないと感じる。高齢化・核家族化が進む中で、人と人とを結びつけるのは難しい。特に、仕事の第一線を退いた人たちが、うまくコミュニティを築くことができるか心配している。

東日本大震災以降、「絆」という言葉をよく聞くようになった。希薄化している絆をもう一度取り戻そうという動きだが、絆は簡単に築けるものではない。希薄化したコミュニティを再構築するには、リーダーシップが必要。今こそ、シニア世代が、それぞれの地域でサロン活動や運動会・お祭りなどの世代間交流行事のリーダーとなり、力を発揮してほしい。

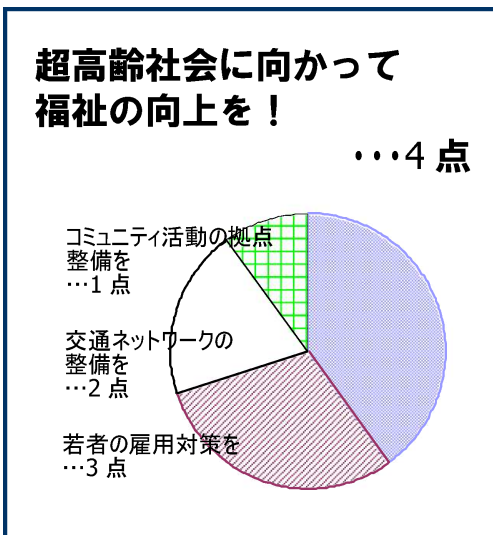
シニア世代が楽しみや生きがいを得ることができれば、健康長寿の社会づくりにも役立つ。余生の20～30年をいかに健康で有意義に暮らせるかが大切。高齢者の生きがいづくりや仲間づくりを応援する、シニアクラブのような組織を充実させてほしい。

●浜名湖全体で観光を盛り上げたい

浜名湖全体として、豊かな自然を活かす観光産業を成長させたい。浜名湖は立地条件が良い。日本のど真ん中だし、高速道路や新幹線などがあり交通の便も良い。人口減少社会において、観光は、流入人口を増やす重要な産業になるはず。

●交通弱者に優しい交通ネットワークを

高齢者が増えるということは交通弱者が増えるということ。現在、浜松の公共交通機関は、浜松駅を中心に放射線状になっている。放射線状の路線に加えて、放射線を横に結んでクモの巣状に整備し、交通弱者に優しい交通ネットワークをつくってほしい。



【浜松市への期待度グラフ】

つるみ ひでと
鶴見 英人さん

遠州鉄道株式会社 不動産事業部 不動産営業課

●浜松を魅力的なまちに

浜松市は自然が豊かで、気候も良く、非常に住みやすい地域である。まちなかを歩いては、知り合いに出会うこともあるが、頻繁に出会うわけではない。私はそういう浜松の規模がちょうど良く、暮らしやすいと思っている。しかし、残念なことは、駅周辺が寂しく、賑わいを感じられないことだ。私が子どものころは、目的を持ってまちに遊びに行けたが、今はまちなかに出て、昔ほど子どもたちを目にすることがない。浜松市が市外からも魅力的なまちだと思われるよう、市街地の開発や、公園の整備などしてほしい。



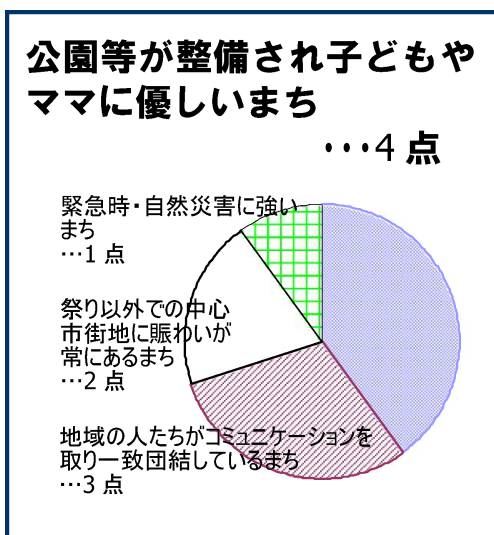
【鶴見英人さん】
地元で働ける環境を整備して、大学進学等で、市外に出た人が、地元に戻りたい、働きたいと思えるまちづくりをしてほしい。

●地元に戻ってこられるまちに

浜松市には就職先が不足しているように感じる。産業が発達しているまちなので、理系の就職先はあると思うが、文系大学に進んだ私の友人はあまり浜松に戻ってきていない。その中には、浜松市に戻りたくても就職先がないと思っている人もいるだろう。人口減少問題とともに、少子高齢化などの問題もあるが、地元の間人が一度県外に出たとしても、戻ってこられる環境をつくることできれば、まちの活性化につながるのではないかと。そのためには、新しく企業を誘致することも必要ではあるが、まず、企業が市外や外国に流出しないように、対策を図るべきである。

●浜松市の土地利用について

今後の人口減少を考慮すると、有効な土地利用が求められるだろう。それは、複合的で合理的な土地活用を推進することである。電車やバスの沿線の計画的な開発をしていくとともに、住宅地の周辺にスーパーを誘致することや企業誘致をきっかけに住宅地を整備するなど、単体



【浜松市への期待度グラフ】

で不動産を考えるのではなく、他の業態と組み合わせることにより、一つのコミュニティをつくり、住民に喜ばれるまちづくりができるとよい。沿線の開発については、調整区域も柔軟に建築できるように行政にも協力してほしい。また、郊外の農地は、後継者不足等により荒れて、放棄されているところもある。そこで、農地を一部宅地として使用できる制度をつくって、農地を売り出すことはどうだろうか。最近では都市部から自給自足の田舎暮らしを求める人もいる。それには現状の課題として農地の取引の活性化と手続きの簡素化などが必要になる。このような提案には様々な規制や法律の緩和などが必要となってくる。行政と民間が一体となって、市民が住みやすいまちづくりをしていきたい。

Dimas Pradi さん

コミュニティカフェチャンプル勤務

●伝統技術と共に生きる

インドネシアでは、伝統技術でつくられたバティック（ろうけつ染めの綿布）の服を着る機会がある。金曜日には子どもたちがその服を着て学校に通い、年に1回はその服を持っている人が全員着るような特別な日もある。また、「Made in Indonesia」以外の生産国は見たことがない。浜松市は注染染め・遠州綿紬といった伝統技術があるので、市をあげてもっと活用すれば良い。バティックとコラボするのも面白い。



[Dimas Pradi さん(左)とご両親]
地域のための無償活動より、ニーズをつくりビジネスに繋げたいと語る。

●80 か国のポテンシャル

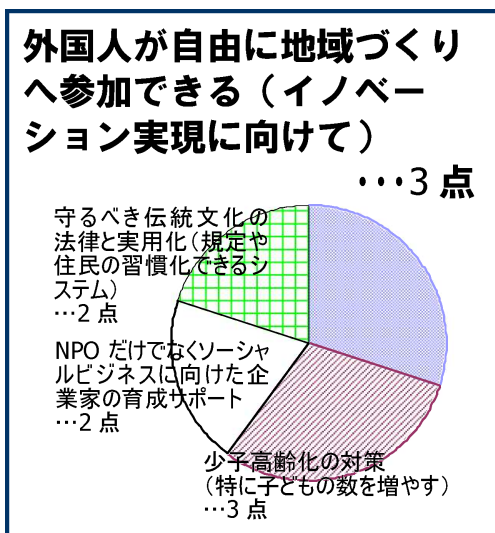
浜松市は 80 か国の外国人が暮らしており全国的に珍しい。80 か国のポテンシャルを活かせる場がほしい。自分はコミュニティカフェという形で多世代・多文化の交流をコーディネートしている。市は多くの外国人が集まる教会や催しで情報を発信するなど、外国人市民が情報を得やすくすることも重要である。

また、外国人が主体的に事業を展開できるような地域になってほしい。現在、浜松市ではブラジル野菜を育てる農家の方もいる。外国人と日本人が共に築き上げる社会を目指すために、外国人から生まれるイノベーションに期待している。

●教育面での支援

学校の先生で「外国人＝支援が必要」というイメージを持っていると時おり感じたことがある。そのようなイメージを取り除きたい。NPO が学校へ支援に入るようになったが、外国人支援を NPO に任せきりにするのではなく、例えば、学校側そして保護者と協調できるような活動ができれば良いと思う。

また、親世代は出稼ぎのために来日したという印象で、その子ども世代は成長していく基盤が日本であるため、世代によって日本に対する考え方が違うと感じる。親が子どもの将来（可能性）のためになにができるかを考えられる仕組みが必要だ。



【浜松市への期待度グラフ】

●各地域で多文化共生

外国人市民が届出の提出等で必要にならない限り市役所へ足を運ぶことは少ないだろう。また、市の広報誌においては翻訳言語が限られているため、市民サービス情報を大いに活かせていないと感じる。さらに、多文化共生事業を集中的に行っている浜松国際交流協会の情報を知らない人も多い。協働センターなど、地区レベルで情報発信や多文化共生できる場を広げてほしい。

どばし とみよ 土橋 登巳代さん

環境省 環境カウンセラー、省エネルギー普及指導員、
地球温暖化防止活動推進指導員、環境学習指導員
NPO 法人エコライフはままつ

●浜松市の誇れるところ

浜松市は、自然豊かな佐鳴湖・浜名湖ガーデンパーク・森林公園など緑も多く、子育てには素晴らしいところだと思う。また、浜松まつりや横尾歌舞伎など、伝統のあるお祭りや郷土芸能についても、この先大切に継承してほしい。

最近では、地球環境を考慮した地産地消のバイオマス発電やメガソーラーなど積極的に取り組んでいて、是非、続けてほしいと思っている。



【土橋登巳代さん】
多種多様な環境に関する取り組みを積極的に行っている。高齢者にもう一度社会貢献出来る「人間リサイクル」を推奨している。

●不妊治療に効果的な支援を

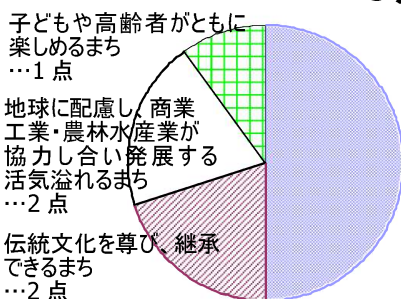
少子化が問題となっているのに、費用の掛かる不妊治療に対しての助成がまだまだ不十分だと思う。身近な人の中にも、子どもが欲しくても金銭的な問題で不妊治療を受けることが出来ずに、出産を断念する人もいと聞いている。また、出産の適齢期の問題が最近話題となっている。行政としては、高齢出産の危険性に関する啓発活動の充実や、ある程度の制限を設けた不妊治療補助制度の実施といった、適齢期の出産を促すような政策を講じることで、不妊治療への効果的な支援を打ち出してほしい。

●高齢者が進んで出かけられるようなくみを

高齢者はどうしても家に引きこもりがちになってしまう。公民館の空いている部屋を開放して、知らない人と話すだけでもボケ防止になる。最近はスーパーマーケット等に避暑のために来ている高齢者をよく見かけるが、良いことだと思う。高齢者が自ら進んで出かけることが出来るように、シルバーセンターの活用や協働センター等で高齢者を対象とした教室などを推進してほしい。

美しい環境の中で、老若男女が互いに認め合い集うまち

…5点



【浜松市への期待度グラフ】

●美しい地球を次世代へ！

浜松市には、環境保全活動を引き継ぐ次の世代が少ない。次の世代を育てるためにも、学校教育の中で、子どもが自然にふれる時間や環境問題について考える機会を与えると同時に、指導者に対して、環境に関する知識を向上させる努力も必要だと思う。

また、環境問題の取り組みを、行政任せにするのではなく、まず、市民一人ひとりができることをやるのが大事である。環境問題に興味・関心を持っている人は大勢いるが、実際行動に移せる人は意外と少ないのが現状である。そこで、市民が「一寸だけ無理をする」ことが重要であり、地域一体となって盛り上げていきたい。

とよだ みつひこ
豊田 光彦さん

御菓子司 有限会社あおい 代表取締役

●今、浜松の歴史的価値が注目されている

静岡市では駿府城を会場としたイベントの開催など歴史と絡めたPRに力を入れている。これに比べて、浜松城の盛り上がりは物足りない印象であった。しかし、最近では市民が主体となって「家康楽市」を開催したり、市では「出世大名家康くん」を前面に押し出したプロモーションを行ったりと成果を挙げ、家康公ゆかりの地である浜松の歴史的価値がこれまで以上に脚光を浴びている。

●縮小する内需には人を呼び込んで対応

製造業の海外進出が目立つ。生産コスト・効率は向上し、企業の成長は見込めるが、地域経済への影響は必ずしも良いとは言えない。市民を対象に商売をしている職種からすると、地元製造業従事者の減少は、顧客数の減少につながる。この状況打破のためには、観光産業を盛り上げ、外から人を呼び込む仕組みづくりが必要である。「食」と「歴史」絡めた新たな文化、観光の創出が可能な素地がこの地域には整っていると考えている。

●浜松プロデューサーを探せ！

浜松には「食」・「観光」・「産業」・「農業」など自慢できるものが点として数多く存在しているが、これらが線になっていない。歴史的な価値も行政・市民それぞれが盛り上げるだけでは力が足りない。例えば熊本城は、城の前に大々的な熊本ブランドのショップがあり、観光客が欲しいものを手に入れやすい環境を整えている。言い換えれば、お金を落としてもらえる仕組みができています。しかし、浜松城には常設のおみやげ店がない。浜松駅にはあるが、駅利用者以外の需要を逃している。浜松の歴史的価値が注目されていて、浜松城にも多くの人々が訪れているのに、チャンスを活かせていない。浜松に数多く点として存在している資源を線で結び、プロデュースすることが出来る「仕掛人」の存在が必要である。新東名高速道路や三遠南信自動車道の開通で交通アクセスが向上している今、「〇〇のために浜松に行く」という武器が一つあれば、浜松は観光地として大化けする。

浜松の歴史的資源の価値の再認識を！

…5点

「メイドインハマツ」の価値を全国に広めたい
…2点

観光に軸足を置いたプロデューサーの発掘・誕生
…3点

【浜松市への期待度グラフ】



【豊田光彦さん】

浜松の歴史、工業、農業、食は誇れるものばかりであり、1人のプロデューサーにより観光地として大化けすると語る。

●やрмаいかブランドの意味

「小豆餅」がせっかくやрмаいかブランドに認定されたが、まだまだ市民にも定着していない。これでは、全国へのアピールは当分先である。

「富士宮やきそば」だけで富士宮があれだけ盛り上がったのだから、「資源の宝庫」である浜松が、やрмаいかブランドをはじめとした「資源」の価値を高くしていくことができれば、浜松の商品が全国に流通し、この地も全国からの観光客で活気づくだろう。